

2019 年度 人間環境学専攻 博士・修士学位記授与式 令和 2 年 3 月 23 日

2019 年度博士・修士学位記授与式を 3 月 23 日に柏キャンパス環境棟講義室 2 で行いました。新型コロナウイルスの感染・拡散防止のため、換気・消毒、マスクの着用、間隔開けるなどの措置をとった上で、研究室単位での学位記の配布を行いました。

● 研究科長賞・専攻長賞授与

伊藤寿浩専攻長により，大学院新領域創成科学研究科研究科長賞受賞者 2 名，人間環境学専攻専攻長賞受賞者 2 名を対象に賞状と記念品を贈呈しました。

研究科長賞

博士： 山本道貴

修士： Mustafa Abdullah Mohamed

専攻長賞：

博士： 片平 啓

修士： 陳 康、田上裕太郎

● 博士・修士学位記授与

伊藤寿浩専攻長により，博士課程修了者 9 名，修士課程修了者 49 名を対象に学位記授与を行いました。



学位記授与式会場



学位記授与の様子

● 祝辞・答辞

修了者全員が集まることはできませんでしたので、伊藤専攻長からの祝辞と修了生代表の答辞をウェブで掲載することとしました。

・ 祝辞（伊藤 寿浩教授，2019 年度人間環境学専攻長）

学位記を手にされた皆さん、おめでとうございます。東京大学・人間環境学専攻教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。また、皆さんを励まし支えてこられましたご親族・ご友人の皆様にも感謝の意とともに祝意を表したく思います。

皆さんは、新型コロナウイルス感染症対策で様々な活動の制限がなされる中、新天地でのスタートを切ることになるわけですが、こういう時だからこそ一層健康に留意し、免疫力を十分に高い状態に保ちながら元気に活躍していくことを強く願っています。

さて、新型コロナウイルス感染症は、今現在は欧米での急激な感染拡大が続き、我が国についても、いつ東京で感染拡大が起こってもおかしく無いとされ、予断を許さない状況です。この感染症は特に高齢者、超高齢社会に大きなダメージを与えるものであることが明らかになってきましたが、そういう意味で今回の感染症問題ほど、“人間環境的”な問題は無く、皆さんもいろいろ考えさせられるのでは無いでしょうか。報道画面に映し出される野戦病院のような医療現場などを見て、こんなデバイスやこんなシステムがあれば役に立つだろうにと思うこともあるでしょう。我が国の現時点での戦略は、個々の行動変容による感染拡大抑制ですが、どういった行動がどう効果的かということをシミュレーションできないかと考えたりもするでしょう。人間環境学を修めた者として、いろいろ考えること、議論すること、そしてそれらの実行に備えることは非常に重要なことだと思います。今回の感染症は間違いなく、人間環境の様々な課題を浮き彫りにするはずで、そして、皆さんはそれらの課題を解決する主力の人材として社会から期待されることになります。

皆さんも予定していた旅行や集まりを中止せざるを得なくなったために、3月に入ってから比較的時間に余裕ができ、読書量が増えた人も多いかと思いますが、最近アルベール・カミュの「ペスト」が上位にランキングしているのだそうです。確かに、読んでみますと、そのまま現在の状況を表しているように感じる箇所が多々あることがわかります。しかし、この本が再び多くの人に読まれているのは、今の閉塞的な状況に対処するためのヒントを得られたように感じるからかもしれません。主人公のリユウ医師は、“ペストに対するただひとつの闘い方は誠実さ”で、その誠実さは“自分の職務を果たすということ”だと言います。今

回の感染症に代表される人間環境の課題は、複雑であり、英雄的な行為では解決できません。現場で直接救命に携わる人、治療薬やワクチンを開発する人、それらに携わる人の生活を支える人、働く人に活力を与える人、・・・皆が誠実に自分の職務を果たすことが課題の解決・克服には不可欠です。皆さんをお送りするにあたり、ありきたりではありますが、「自らの職務を果たす人となってください」を餞の言葉とさせていただきます。

今回残念ながら学位記授与後の祝賀会を行うことはできませんでしたが、我々としては“延期”と考えています。例えば1年後に通常のキャンパスに戻りましたら、是非この学び舎で同窓会のようなものを行いたいと思います。その会で元気に活躍する皆さんと再会することを専攻教職員一同楽しみにしています。

・ 答辞 (Mustafa Abdullah Mohamed, 2019 年度人間環境学修士学生代表)

First and foremost, congratulations to every student, every family, and every professor; you have made it through. Getting our degrees sure wasn't an easy challenge to take it on; yet, we fought for it, and we won. It wouldn't have been possible without our professors' guidance, our families' support (both emotional and financial), and our endless frustrations and sleepless nights at the lab. By now, everyone should be relieved, but behold; it is just the beginning.

As I am writing this message, our world is going through some rough times. We are having a fierce fight against the COVID-19 virus. Many events had to be called off including our graduation ceremony; however, we shall make up for it after we win this fight. Hopefully, as you are reading this message, things have gotten better.

These are hard times, and the world, as we know it, is collapsing. However, I am a strong believer that what doesn't kill you, makes you stronger. Regardless of our current position, we should all take full responsibility to get through the current phase with minimum losses. Afterwards, there would be no better time than now to rebuild our world to be brighter than it ever was.

As graduates of “Human and Engineered Environmental Studies” department, we are well-equipped with a skillset that would contribute significantly to this rebuild. With a wide spectrum of interdisciplinary knowledge, students of our department can approach problems of high complexity in fields of health, energy, environment, complex systems, assistive technology, and many more. Restoring our normal lives would be a tough challenge, but it is always possible through hard work, honesty, and dedication.

Anyways, what the future holds for us is unknown, so our only way out is to live today to the fullest. Enjoy this unprecedented time with your family and beloved ones. Have some

personal time to dwell over your past, and plan for your future. Now is the time to do things you never had time to do. Soon, all this would be over, and the world would need you back.